

北海道 ウォーキング・ルート情報 釧路・根室圏

所在場所	北海道川上郡弟子屈町
コースの名称	和琴半島自然探勝路
コースのご紹介	一周2.5kmを約1時間ほどで回れ、ちょっとしたハイキングには最適。日本最北限のミンミンゼミやアカゲラなどの野鳥、冬でも地熱の高いところではマダラスズ（コオロギ）の鳴き声も聞くことができます。また、疲れた後は露天風呂に入ることにも出来、自然を満喫出来ます。

始点・終点	和琴半島の付け根	
距離	2.5km	
所要時間(目安です)	約1時間	
利用可能期間	基本的には年中可能(冬季除雪等なし)	
案内標識	案内看板、解説看板	
トイレ・休憩施設	トイレ(駐車場、露天風呂)、休憩所(キャンプ場、露天風呂) 展望台(オヤコツ地獄)	
交通アクセス	公共交通機関	JR摩周駅からバスで35分
	自家用車	釧路市から約110分
	駐車場	あり:無料
周辺観光資源等	和琴半島露天風呂、キャンプ場(民間、公共)、美幌峠	
管理主体 (問い合わせ先)	名称	環境省川湯自然保護管事務所
	住所	弟子屈町川湯温泉2丁目2番2号
	電話	015-483-2335

和琴半島 自然探勝路



INFORMATION WAKOTO



和琴半島自然教室

和琴半島のみどころや地形のおいたち、動植物などパネルで紹介しているのが和琴半島自然教室です。エゾシカの剥製や屈斜路湖に生育する、弟子屈町の天然記念物のマリゴケも展示されています。開館は5月から10月末日までで、館内でのスライド上映も可能です。

和琴キャンプ場

和琴キャンプ場は、トイレや炊事棟は勿論、管理棟のログハウスにはシャワーやコインランドリーも完備されています。



●お問い合わせは●

環境省自然保護局川湯自然保護官事務所
〒088-3465 北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-1 ☎(01548)3-2335

(財)自然公園美化管理財団川湯支部
〒088 3465 北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-3-2 ☎(01548)3-2567

〔自然公園美化管理財団は、駐車場等の施設利用料により、国立公園の美化清掃や公園施設の維持管理を行なっています。〕

和琴の自然

彩発見



シジュウカラ

シジュウカラ科の小鳥で日本各地に広く分布しています。背は黄緑、胸腹の中央には縦の黒色帯が1本あります。

コゲラ

森林にすみ、日本各地に広く分布しています。キツツキの一種で日本のキツツキ類では最小のスズメくらいの大きさです。



ミズバショウ

湿地や湿り気のある原野に生育します。花の咲く時期は4～7月草たけは40～80cmくらいです。



ニリンソウ

山野や林の日陰に生育します。花の咲く時期は4～6月で草たけは20～30cmくらいです。



オオバナノエンレイソウ

山すそや林のなかに生育します。花の咲く時期は4～5月で草たけは20～40cmくらいです。



エゾアカガエル

アカガエルでも独立した種類のエゾアカガエルは、山地や平坦な草地などで見られます。

和琴半島自然探勝路

ポイントガイド

和琴半島を一周する自然探勝路は、周囲が約2.5km、1時間くらいで手軽にまわれる遊歩道です。半島には可憐な草花や樹々、動物や鳥達が生息し、探勝路途中の解説板で植物などを説明しているので、自然に触れながら楽しく学ぶことができます。

1 とてもオープンな露天風呂

和琴半島のつけ根には、周囲に物かげのまったくないオープンな露天風呂があります。泉質は単純泉、無色透明なので底の砂地から気泡と一緒に温泉が湧いているのがわかります。神経痛・運動器障害などに効果があり少し熱めの43~44度です。



2 コバルトブルーの湖水

探勝路を進みながら湖水を見ると、コバルトブルーの何ともいえない色をしています。これは昭和13年の湖底噴火以後、噴出物で水質が酸性になったため、その後魚はほとんどいなくなりました。最近酸度が落ち徐々に回復しています。



3 バンザイがトドマツ

和琴半島には、北海道を代表するトドマツが多く見られます。また、よく似ているエゾマツもありますが、区別するのは簡単です。一般的に枝が上向きなのがトドマツ、下がり気味なのがエゾマツです。「バンザイがトドマツ」と覚えましょう。



4 冬も休眠しないエゾリス

エゾリスは、フサフサした毛の大きな耳と冬も休眠しないのが特徴です。よく知られているシマリスよりはずっと大きく、灰色がかかった色をしています。広葉樹の枝の上でジッとしていることも多いので、探してみてください。



5 日本最北限のミンミンゼミ

北海道ではとても珍しいミンミンゼミが、ここ和琴半島に生息しています。暖候期には広く分布し、その後の気温低下で火山活動で地温の高いここに生き残ったと考えられます。日本最北限の生息地なので、国の天然記念物に指定されています。



時計まわりのコースが比較的ラクです。

6 冬に虫の声?



長い階段の横の斜面は樹木が生えていません。これは昔の硫気孔の名残りで今もわずかに噴気があるため、特殊な植物しか生育できないからです。そのかわり地熱で冬も雪が積もらず、コオロギの仲間のマダラスズの鳴き声が聞かれます。

7 和琴半島は火山島



半島先端のオヤコツ地獄は噴気が上がり温泉も湧き、和琴半島が火山島であったことを証明しています。松浦武四郎がこの地を訪れた時、「東向に一ツ火坑有り、常に燃て黒煙噴出し其響きに聞ゆ」と記し、当時の活動の盛んさがうかがえます。

8 野鳥の楽園



和琴半島は野鳥の楽園で、特にカラとキツツキの仲間は一年中姿を見ることができます。カラ類ではシジュウカラ・ヤマガラ・ハシブトガラが、キツツキ類ではアカゲラがよく見られます。運が良ければクマゲラやヤマゲラも見られるでしょう。

9 和琴半島の春告花



和琴半島の春をいち早く告げるのが、黄色のフクジュソウと青紫のエゾエンゴサクです。これらの花は木々が葉をつけ林が暗くなるころには、来春までの長い休眠に入ってしまう。このような植物は「春の妖精」という名で呼ばれています。

10 マリゴケ



木道から湖岸に出てみましょう。岸辺に打ち上げられた黒っぽい丸い形をしたものが見られることがあります。これは、湖水の水深1~2mの湖底に密生している植物の遺体が波に洗われ、回転運動の末に丸く結び付いてできたマリゴケです。

和・琴・半・島・辞・典

■地形のおいたち

和琴半島は、今から1~2万年前の火山活動により屈斜路湖内にできた火山島に、土砂が堆積して湖岸とつながったものです。

■語源

アイヌ語でワコッチ(魚の尾のくびれたところ)と呼んでいました。大正10年この地を訪れた紀行作家の大町桂月が和琴という漢字に改称しました。

